

緑化センター みにがいど No.21

キンモクセイと ギンモクセイ



緑化センターでも秋の到来を告げるキンモクセイの甘い香りが漂って来るようになりました。キンモクセイは、雄花をつける

木と雌花をつける木が違う雌雄異株の中国原産の樹木で、日本には雄木しか入っていないので実をつけないとされています。(花の色が薄いウスギモクセイは実をつけますが、当センターにはありません。) 白い花をつけるギンモクセイや、葉のトゲ(鋸葉)の大きなヒラギモクセイ、もっと鋭いトゲのヒラギも植えてありますので探してみてください。



キンモクセイ モクセイ科

キンモクセイは中国原産の常緑小高木で、広く庭木として植栽されている。秋に橙色の小さな花が束になってつく。雌雄異株で雄の木につく雄花ではめしべが退化している。日本に植えられているものはすべて雄木とされている。ギンモクセイも中国原産のモクセイ科の常緑小高木で白い花をつけ、これも日本には雄木しかなく実をつけることはない。この仲間のウスギモクセイはキンモクセイよりも薄い黄色の花をつけるが、こちらは日本で実をつける。

節分などに使われるヒラギもモクセイ科で、葉の縁のトゲ(鋸歯)があまり鋭い。ヒラギモクセイはヒラギとギンモクセイの雑種。

キンモクセイの葉には鋸歯が無く(全縁という。),ギンモクセイ→ヒラギモクセイ→ヒラギの順に鋸歯が大きくなり鋭くなる。

コーヒーで一息入れませんか
緑化センター レストハウス